

令和5年度 委員会活動報告

令和5年8月1日～令和6年7月31日

学術委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎稲垣 美紀(摂南大学)

○大江 理英(兵庫県立大学)

○山内 英樹(東京情報大学)

関口 亮子(なな一る訪問看護ステーション)

宮脇 郁子(神戸大学)

深水 愛子(大阪警察病院)

吉宮 ナナ(関西医科大学附属病院)

■活動の概要

1. 循環器病に関わる看護職者の知識の向上に資する教育セミナーの開催

第43回と第44回の教育セミナーをZOOMウェビナーによるオンラインで開催した。

【第43回概要】

テーマ「循環器疾患の緩和ケア ～根拠にもとづいた全人的ケアをスペシャリストから学ぶ～」

日時:2024年2月18日(日)13:00～16:10

講演1:循環器緩和ケアの現状と未来

講師:濱谷 康弘先生(国立病院機構京都医療センター 循環器内科 医師)

講義2:身体症状の評価とケア

講師:高田 弥寿子先生(国立開発研究法人国立循環器病研究センター 看護部 急性・重症患者看護 専門看護師 特定行為研修部 特定行為研修管理室長)

講演3.:精神症状の評価とケア

講師:竹原 歩先生(兵庫県立はりま姫路総合医療センター 看護部 精神看護専門看護師 心臓リハビリテーション指導士 WRAPファシリテーター)

質疑応答と総合討論

担当(学術委員会委員):吉宮 ナナ、深水 愛子

参加者:会員72名 非会員94名 合計166名

【第44回概要】

テーマ:「これから頑張る力にできる!循環器病棟の看護に活かせる薬剤・検査の知識」

日時:2024年7月7日(日)13:00～16:00

講演1:ヘルスアセスメントから循環器看護を実践しよう!

循環器病棟の看護に活かせる心不全の知識

講師:中本 敬先生(社会医療法人警和会 大阪警察病院 循環器内科 副部長)

講演2:循環器病棟の看護に活かせる薬剤の知識

講師:田中 雅幸先生(摂南大学 薬学部 准教授・関西医科大学附属病院 薬剤部・心不全療養指導士)

講演3:循環器患者の重症化を予防できる臨床判断とケア

講師:小野 めぐみ先生(医療法人藤井会 石切生喜病院 看護部 師長・心不全看護認定看護師)

参加者:会員45名 非会員109名(新人看護師23名) 合計154名

2. セミナー内容、セミナー運営方法の検討

参加者数やアンケート調査結果をもとにセミナー内容や運

営方法について検討を行った。2回とも参加者の満足度は高かった。参加費への意見が継続していたため、44回セミナーにおいては、新人看護師のみ非会員でも会員と同じ参加費としたが、新人看護師の参加が多くなるということにはなかった。43回セミナーをもとに、オンデマンド配信の運用や費用面の検討を行ったが、費用や運用の両面を充足できる案の作成は至っていない。今後も対象者のニーズに沿ったセミナー内容や配信方法、参加費の設定などを検討していく必要がある。

3. 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた検討

循環器看護学会コンピテンシーWG活動への参画。

本学会WGを立ち上げ、活動を開始した。WGリーダーは、山内英樹(学術委員会副委員長)、サブリーダーは、関口亮子(学術委員)とした。また、WG活動には、学術委員以外の人材を必要としたため、新たにサブリーダーとして、佐野 元洋(千葉大学大学院)、北村 幸恵(順天堂大学)、伊藤 由康(兵庫県立大学)、北別府 孝輔(岡山大学)の4名の会員が活動に参画している。文献検討や定例会議を行い、コンピテンシー案及び具体的な研究計画を作成後、倫理審査での承認を得て、フォーカスグループインタビューを実施した。今後は学術集会の交流集会等での意見聴取やデルファイ調査を実施していく予定である。

以上

(報告者:稲垣美紀)

学会誌編集委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎三浦 英恵(日本赤十字看護大学)

○宮脇 郁子(神戸大学)

大津 美香(弘前大学)

落合 亮太(筑波大学)

簗持 知恵子(大阪公立大学)

宮松 直美(滋賀医科大学)

山内 英樹(東京情報大学)

山田 緑(共立女子大学)

■活動の概要

学会誌編集委員会を3回(WEB会議)開催し、適宜メールでの意見交換や情報共有を行い、以下の活動を行った。

1. 日本循環器看護学会誌のJ-STAGEへの掲載

19巻から冊子体からJ-STAGEへの掲載となった。19巻1号(研究報告2件)、19巻2号(総説1件、研究報告1件)をJ-STAGEに掲載し、掲載時には会員にメールで周知を行った。

2. 学会誌への投稿促進のための活動

第20回学術集会での委員会企画交流集会として「日本循環器看護学会誌の20年のあゆみとこれから」を開催した。投稿規程の改正の変遷や、投稿数・採択数の推移、論文種別

ごとの研究タイトルや研究内容・方法の傾向、優秀論文・奨励論文などの受賞論文などを紹介し、受賞者より論文投稿から査読の経験をご発表頂いた。

3. 投稿規程および各種ガイドライン等の改正

1) 投稿規程の改正

学会誌への投稿促進につなげるため投稿規程の改訂を行った。主な変更点は下記の通りである。

- ・ 投稿者の資格: 共著者の場合は非会員でも可とし、採択決定後に掲載料を支払う。
- ・ 論文種別・字数: 論文種別の「その他」をなくし、事例報告・実践報告の枚数を8,000字から16,000以内に変更。
- ・ 投稿論文への行番号の挿入: スムーズな査読のため投稿原稿に行番号を挿入してもらうように明記。

2) 査読ガイドラインの改正

専任査読委員、編集委員、編集委員長役割を明記し、多重投稿、多重掲載に関する本学会誌の考え方を具体的に追記した。

3) 論文投稿から掲載までのプロセスに関するガイドラインの改正

学会誌が冊子体からJ-STAGEへの掲載になった点を主として掲載までの流れを現状に即して修正を行った。

以上

(報告者: 三浦英恵)

政策・診療報酬委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎池亀俊美(公益財団法人榊原記念財団附属榊原記念病院)

○山田佐登美(川崎医科大学総合医療センター)

伊東紀揮(医療法人社団ゆみの)

竹原 歩(兵庫県立はりま姫路総合医療センター)

多留ちえみ(神戸大学大学院)

戸沢 智也(獨協医科大学)

西田和美(国立循環器病研究センター)

藤井 利江(兵庫医科大学病院)

水川真理子(神戸市看護大学いちかんだ이버シティ看護開発センター)

山部さおり(訪問看護ステーションひなた)

渡邊裕美子(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)

■活動の概要

1. 委員会活動

- 1) 「心不全患者に対する多職種チームや看護師等による心不全患者の再入院を予防するための指導管理に関する実態調査」の分析結果を、本学会学会誌に2報に分けて投稿した(査読中)。
- 2) 第21回本学会学術集會にて、以下のシンポジウムを企画した。「循環器看護を可視化する〜どのようにしてデータを作り、政策提言につなげるか〜」。座長池亀俊美、水川真理子(本委員会委員)。演者水川真理子、井

村真澄(日本母性看護学会)、小林志津江、山田佐登美(2024年11月9日予定)

- 3) 心不全療養支援標準プログラム作成部会を設置した。
- 4) 令和8年診療報酬改定に向け、当学会から、引き続き看護技術提案書を申請する旨であることを看保連に回答した(令和6年4月)
- 5) 上記1)から4)のため、オンラインにて、委員会を開催した(令和5年11月14日、令和6年3月12日、7月24日)

2. 渉外活動

- 1) ①公益社団法人日本看護協会医療政策部 医療制度課から、令和6年度診療報酬改定に向けて、慢性心不全患者の療養支援のエビデンス構築に向けた実証事業を実施する計画とそのために「病院の外来・診療所における看護機能の明確化に係る検討委員会」を設置され、本学会と連携して進めていくことの提案があり、本委員会委員長が委員の一人として参加することとなった。その後、令和5年は、この委員会が「外来機能の強化に関する検討会」へ発展し、引き続き山田佐登美氏が委員長として参加となった(第1回委員会 令和5年10月23日オンライン会議にて参加、実証事業終了に伴い、本活動も終了となった)。
- 2) 1)の実証事業のためのプロトコル論文「Propelling Nurse-Led Structured Intervention to Enhance Self-Care among Patients with Chronic Heart Failure (PROACT-HF): A Cluster Randomized Controlled Trial Study Protocol」(Journal of Personalized Medicine)に掲載された(2024年8月)
- 3) 看保連の以下の会議に委員長、副委員長がオンラインにて出席した。

・令和6年2月26日 第1回看護技術検討委員会

・令和6年3月12日 第1回診療報酬ありかた委員会

・令和6年3月14日 第1回介護報酬ありかた委員会

・令和6年6月28日 総会

以上

(報告者: 池亀俊美)

広報委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎鷺田 幸一(兵庫県立尼崎総合医療センター)

○坂本 明子(千葉県立保健医療大学)

戸田 美和子(倉敷中央病院)

富山 美由紀(のぞみハートクリニック)

中野 直美(慶應義塾大学病院看護部)

山中 源治(日本赤十字看護大学)

■活動の概要

1. 学会 Web サイトのリニューアルに関する活動

- ・ 学会 Web サイトリニューアルに関する活動を行った。サイトの実用性、内容、セキュリティ等の最終チェックを行い、令和5年9月にリニューアルサイトの公開を開始した。
- ・ リニューアルサイトの公開後、掲載内容が最新となるよう定期的にチェックを行った。
- ・ 現在準備中のコンテンツ(看護の広場)に関する内容の

検討を行った。また、同準備中のコンテンツ(オンデマンド配信)については、学術委員会と実現にむけた問題点を明確化するための意見交換を行い、業者との打ち合わせを実施した。

2. 会員の研究・臨床実践活動に関する広報活動推進

- ・ Newsletter 研究編について、2 記事を発行した。
- ・ Newsletter 臨床編について次回執筆者の選定、依頼作業を行った。

以上

(報告者:鷺田幸一)

倫理委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎宇都宮 明美(関西医科大学)

- 竹原 歩(兵庫県立はりま姫路総合医療センター)
- 加賀谷 聡子(杏林大学)
- 松本 幸枝(亀田医療大学)
- 鷺田 幸一(兵庫県立尼崎総合医療センター)

■活動の概要

対面会議(ZOOM)2回、メール審議3回

1. 2 件の倫理審査申請があった。1 件は申請後に取り下げをされ、もう1 件は簡易審査として審議し、承認とした。
2. COI 自己申告書の確認を実施した。
3. COI フローを作成し、倫理委員会内申し合わせ事項とした。

以上

(報告者:宇都宮明美)

国内交流委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎小泉 雅子(東京女子医科大学)

- 竹原 歩 (兵庫県立はりま姫路総合医療センター)
- 山中 源治(日本赤十字看護大学)
- 角口 亜希子(榊原記念病院)
- 富山 美由紀(ゆみのハートクリニック)

■活動の概要

本法人の国内の循環器看護の関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかるため、メール会議を 11 回開催し、下記の関連学会とのジョイントシンポジウムの開催の企画・検討および承認、座長の選定・推薦をした。

●開催済み

- 1) 第 61 回日本人工臓器学会大会において、ジョイントシンポジウム「高齢化社会における循環器治療の問題点～意思決定支援のあり方について～」(座長:中島千春氏、演者:岡田悦代氏、田中奈緒子氏)が現地で開催された(2023 年 11 月 9～11 日、於東京)。
- 2) 第 20 回日本循環器看護学会学術集会において、以下の 4 つの共同シンポジウムが WEB で開催された(2023 年 9 月 16～17 日、於東京)。
 - ・ 日本不整脈心電学会との「医療と生活をつなぐ:不整脈患者への看護の専門性」(座長:齊藤奈緒氏、演者:石原真由美氏、富山美由紀氏)

- ・ 日本エンドオブライフケア学会との「心不全患者のエンドオブライフケア」(座長:坂本明子氏、演者:堀川由加里氏)、⑦日本人工臓器学会との「補助人工心臓の現在と未来」(座長:山中源治氏、演者:小澤敬子氏、久保田香氏)
 - ・ 心友会との「人と人/思いをつなぐ:わたしたちの意思決定」(座長:三浦稚郁子氏、座長兼演者:落合亮太氏)。
- 3) 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会において、合同企画ジョイントシンポジウム「“食べる”を支える心臓リハビリテーション」(座長:富山美由紀氏、演者:小布施未桂氏、長尾工氏)が現地で開催された(2024 年 7 月 13～14 日、於神戸)。

●開催予定

第 21 回日本循環器看護学会学術集会において、以下の 3 つの共同シンポジウムが現地で開催される予定である(2024 年 11 月 9～10 日、於東京)。なお、本学会からの座長および演者についてはすべて推薦・承認済み。

- ・ 日本人工臓器学会との「補助人工心臓 Destination Therapy の現実 -みえてきた課題-」(座長:山中源治氏、演者:荒畑美樹氏、深水愛子氏)
- ・ 日本在宅看護学会との「循環器疾患患者の在宅療養を支える-心不全パンデミック時代の多様な取り組み-」(座長:伊東紀揮氏、演者:山城智恵子氏、富山美由紀)
- ・ 日本慢性看護学会との「病みの軌跡から循環器看護を再考する-慢性病をもつ人の長期的なセルフケア支援に焦点をあてて-」(座長:中島千春氏、演者:五十嵐葵氏、青木芳幸氏)。

以上

(報告者:小泉雅子)

国際交流委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎落合 亮太(筑波大学)

- 岡田 明子(北里大学)
- 加藤 尚子(Linköping University)
- 辰巳 友佳子(帝京大学)
- 西山 知佳(京都大学)

■活動の概要

1. 循環器看護に関する国際的動向をメーリングリストにて学会員に配信した(Association of Cardiovascular Nursing & Allied Professions Young Committee 日本代表の公募など)。
2. The Global Cardiovascular Nursing Leadership Forum へ派遣する会員の調整を行った。

以上

(報告者:落合亮太)

選挙管理委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎山中 源治(日本赤十字看護大学)

- 池亀 俊美(公益財団法人榊原記念財団附属 榊原記念病院)

大江 理英(兵庫県立大学)
小泉 雅子(東京女子医科大学)
正垣 淳子(神戸大学大学院)
前田 靖子(医療法人名古屋澄心会名古屋ハートセンター)

■活動の概要

法人第6期選挙を実施した。社員選挙及び理事・監事選挙を実施し、社員・理事・監事候補を選出した。

以上
(報告者:山中源治)

将来構想委員会

■構成メンバー(◎委員長、五十音順)

◎旗持 知恵子(大阪公立大学)
伊東 紀揮(ゆみのハートクリニック)
落合 亮太(筑波大学)
齊藤 奈緒(宮城大学)
正垣 淳子(神戸大学)
戸沢 智也(獨協医科大学)

■活動の概要

3回のWeb会議と数回のメールでの審議を行い、前年度行った「循環器病対策推進基本計画」に関わる各委員会の活動評価と活動計画についての活動経過の調査計画を立案し、実施した。それに基づき、学会全体の活動評価や課題を提示するとともに、本委員会活動の評価を行った。また常設委員会として必要な準備を行った。

1. 「循環器病対策推進基本計画」に関わる各委員会の活動状況の調査の実施と報告書の作成

令和6年4月23日～5月17日に調査を実施し、一般市民も含めた循環器病予防の正しい知識の普及・啓発に関する取り組みや、活動の基盤となる委員会やワーキングの整備、情報発信システムの検討や整備がなされ、一部の委員会では具体的活動が開始されていた。その他調査では第21回学術集会においては循環器対策基本計画に関連したシンポジウム等が企画され、施策に対する学会としての基盤づくりや情報発信等の活動が行われることも報告された。今後は、委員会間で連携して活動を充実させることや看護の学術団体としての独自の活動の推進の必要性を提示した。

2. 将来構想委員会の規定の整備

常設委員会として必要な委員会規程を作成し、理事会で承認を得た。

以上
(報告者:旗持知恵子)

社会貢献委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎眞茅 みゆき(北里大学)
○池亀 俊美(榊原記念病院)
久家 由美(近森病院)
田中 靖弘(榊原記念病院)
辻井 由紀(たつの市民病院)
中島 菜穂子(久留米大学病院)
仲村 直子(神戸市立市民総合医療センター)

平野 美樹(亀田総合病院)
水川 真理子(神戸市立大学)
山部 さおり(訪問看護ステーションひなた)
吉屋 直美(桜橋渡辺病院)
李 民純(星総合病院)

■活動の概要

循環器病に関する啓発活動

1. 健康ハートの日の市民向け活動への参画

2024年7月～9月に開催された、心臓病予防啓発活動「健康ハートの日」に参画した。具体的には、小学生向けセミナー、Jリーグとのジョイントイベント、健康ハート・シンポジウムの企画、運営に参画した。

2. 女性の心臓病予防活動(Go Red For Women)への参画

2024年2月に開催された女性の心臓病啓発活動「Go Red for Women」のセミナーに学会代表として委員が登壇し、看護職の立場から女性の心臓病予防の重要性を述べ、セミナーの企画、運営にも参画した。

以上
(報告者:眞茅みゆき)

総務委員会

■構成メンバー(◎委員長、○副委員長、五十音順)

◎齊藤 奈緒(宮城大学)
○宇都宮 明美(関西医科大学)
林 亜希子(北里大学病院)
若林 留美(東京女子医科大学病院)

■活動の概要

メール会議(適宜)およびweb会議(3回)を実施した。

1. 循環器病対策推進基本計画に基づく本会事業見直しに伴う委員会組織・業務整理および各委員会の活動支援、調整

- ・ 臨時委員会:社会貢献委員会の新規設置および委員や予算配分調整を行った。臨時委員会:将来構想委員会および社会貢献委員会を常設委員会とするため、規程をはじめとする運営調整を行った。
- ・ ワーキングや委員会内部会設置、委員選出・予算配分等に関する支援を行った。
- ・ 委員会・事業運営のスマート化のためのDXを実施した。

2. 本会設立20周年企画

第21回学術集会会期中(令和6年11月)の市民公開講座として、「日本循環器看護学会の社会貢献の展望」をテーマとし、患者会、関連学会、若手心不全CN等を迎えるパネルディスカッション開催を企画・準備した。

3. 理事会、社員総会、会員総会の運営補助

令和5年度理事会(対面およびweb)の準備・運営、令和6年度第1回定時社員総会、理事会、会員総会の準備を行った。

4. 会員獲得・会員情報管理に関する事業

入退会者管理、各種費用支払いおよび令和5年度中間予算執行状況確認を行った。

5. 会員シーズデータベースの構築

循環器看護の質向上や社会貢献を担う様々な事業に携わる人材発掘のための会員シーズデータベースを新築し、

役員、委員を対象とする試行を終え、令和 6 年度より運営開始とした。今後、国内交流、国際交流、社会貢献活動等様々な事業活動において幅広く会員の専門性を発掘し、役割發揮頂くために活用する。

6. 規定類の評価・見直し

委員会構成の変化に伴い、定款細則、委員会規程等、スムーズな委員会活動が持続可能となるよう点検・見直しを行った。また、個人情報取扱規程の新設、プライバシーポリシーの改編を行った。学術誌論文以外で学会に著作権のあるものについての転載に関する規程を新設した。

7. 若手研究者の研究助成事業の実施・評価

4年間の審査を終え、臨床看護研究を推進するために、助成対象者要件の見直しを行い、規程等を改訂した。また、令和 3、4 年度助成者の成果発表状況のモニタリング、令和 5 年度助成者への助成期間終了後の手続きの連絡、令和 6 年度助成者の審査委員会を立上げ、1 件承認を得た。

8. その他

医療事故調査・支援センターへ個別調査部会員を 2 件派遣している。日本看護系学会協議会、日本看護協会による調査等に協力あるいは担当員を会員から派遣している。

以上

(報告者:齊藤奈緒)